

# 取組事例の紹介 ⑨



長野県教育委員会事務局教学指導課心の支援室

## K小学校で大事にしていること

今回は、「授業のユニバーサルデザイン化」と「子どもを良さからとらえる」ことを重点に、開発的・予防的生徒指導に取り組んでいるK小学校の取組を紹介します。

### 授業のユニバーサルデザイン化

K小学校では、子どもたち全員が、日々の授業で学習の楽しさや学ぶことの喜びを感じることが、予防的生徒指導につながると考え、「授業のユニバーサルデザイン化」を大事にしています。



整然とした教室環境

「黒板は学習の窓です。教師が物置にはなりません」(校長先生)



班ごとに整頓されたロッカー

「係活動の内容が明確になり、子どもたちをほめる機会が増えました」(担任の先生)

授業がわからないもの、つまらないものになったときに、子どもの課題が大きくなり、いじめなど、新たな問題行動につながるおそれがあることから、K小学校では、子どもたち全員にとって「分かる・できる」授業になるよう、教室環境を整えることはもちろん、以下のことを基本として授業を構想しています。

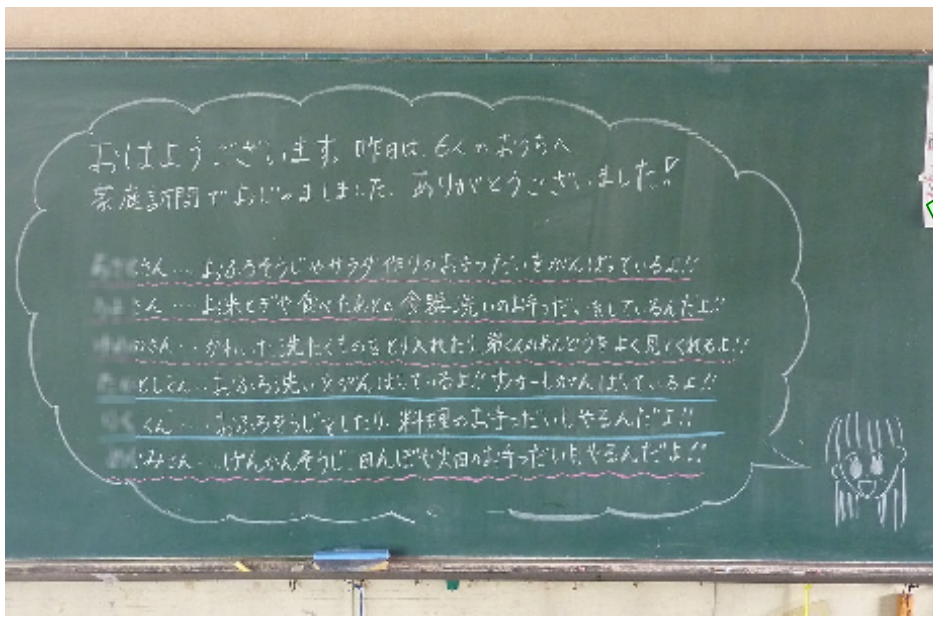
### K小学校 授業の基本

- 1 始めと終わりの時間を守る
- 2 授業の見通しや期待がもてる導入
- 3 言葉だけでなく説明・具体的な資料提示
- 4 何を考えたらいいか、何をしたらいいかわかりやすい指示・発問
- 5 明確ではっきりと単文で言い切る
- 6 学習活動や学習形態に変化をつける
- 7 成長や学びの良さを認め合える終末
- 8 一時一事で見届ける など

この他にも・・・

- ・同学年の先生の授業を見合う
- ・他の教室にふらっと入って、掲示物の様子や学習用具の置き方を見て参考にする。
- ・構成的グループエンカウンターを積極的に取り入れる。
- ・学年同一歩調の授業、掲示方法などに取り組んでいます。

## 子どもを良さからとらえる



### ちょっとひと工夫…

家庭訪問期間中のある教室黒板朝、登校してきた子どもたちが目にします。こんな視点で家庭訪問すると、子どもたちの自己肯定感も高まり、保護者も子育てに自信を持つようになります。

### 「リフレーミング」を使ってみましょう

ある枠組み(フレーム)で捉えられている物事を、枠組みをはずして、違う枠組みで見ること

だらしない	→	こだわらない
短気な	→	感受性豊か
単純な	→	素直な
調子に乗りやすい	→	明るい、行動的、素直な
つまらない	→	おだやかな、ひかえめな
つめたい	→	冷静な
でしゃばり	→	世話好き、積極的な

あるお母さんはお子さんが無口であることを嘆いていました。しかし私は「無口というよりも、しっかり話の聞ける子」というふうに捉えていることをお母さんに伝えました。

年度末の学級懇談会で「たしかに無口ではなくて、周りに良く気を遣う子で…」と、お母さんが発言されていました。

教師の捉えは、子どもや親に与える影響力が大きいと感じます。

お家の方に、お便りや個別懇談などの場で、子どもの良さを伝えていくことの大切さを感じています。

### 職員の情報交換により児童理解を深める

K小学校では、担任の一面的な見方を防ぎ、子どもたちの良さを語りながら児童理解を深めるために、学年会や職員会等でなるべく多くの時間を割き、情報交換をしています。

#### 図書館で・・・

ある日、図書館で騒いでいた子について、担任として謝ると「それでもね、去年は先生の言葉をまったく無視していたAさんが、ちゃんと先生の顔を見て一応返事をしてたでしょ。変わったねー」と司書の先生が教えてくれました。担任が知らなかったその子の小さな成長を、司書の先生はとらえていたのです。担任の先生もうれしくなり、今度は自分もその子の成長を見つけたり、それをその子に伝えたりしたいと思うようになりました。

・—・—・—・—・—・—・—・—・—・—

K小学校で大事にしている「**授業のユニバーサルデザイン化**」も「**子どもを良さからとらえる**」ことも、いじめ未然防止のための根本的な解決策として、どの学校でも参考になりそうです。